

加速するデジタル技術と我々が背負ったWebリスク(2)

文 佐々木寿郎

text by Toshiro Sasaki

と きに「嘘」は「真実」を作り出すことがあります。それはデジタル技術の発達により「フェイクニュース」として大きく取り上げられるようになりました。

Web上にアップロードされた情報は、一瞬で世界中に発信されます。それが多くの人にとって興味がある内容であれば、無数の人間の手で複製がくり返され、爆発的に拡散します。そして不特定多数の支持を得ることで、拡散された情報は真実味を帯びるようになるのです。

2018年5月13日、「蛞蝓亭^{なめくじい}」という、うどん屋を自称するアカウントの投稿が、大手SNSの「ツイッター」で話題になりました。内容は次の通りです。「無断キャンセルに遭いました。(中略) 国際信州学院大学の教職員の皆さん、二度と来ないでください」。この投稿に対して怒りの声や同情の声が次々に飛び交いました。弊社の調査で

は5月14日の「国際信州学院大学」に関する投稿は14万件、「蛞蝓亭」に関する投稿は6万6000件に上りました。5月12日までは一日あたりの投稿数は100件にも満たなかったのですが、いかに情報の拡散力が強かったのか分かりません。ただ、この出来事で最も重要なことは「蛞蝓亭」という飲食店も「国際信州学院大学」という大学も実是在していなかったという点です。

「蛞蝓亭」の仕掛け人は架空の大学のホームページを作り、複数の架空アカウントを用意することで「蛞蝓亭」と「国際信州学院大学」が実在するかのように見せかけたのです。

この出来事だけでは単なる珍事に過ぎませんが、特定の企業や個人を傷つける目的で行われていたらどうなっていたでしょうか。本人には全く身に着けない「真実」が公然と曝露されていたかもしれません。そうなれば、個人であれ法人であれ、大きな損害を受

ける可能性が高いです。

もしもその様な被害を受けた場合には、情報の拡散前にいかに対策を講じられるかが重要です。いつ何が起きてもいいように、有事の際のガイドラインを準備しておくことが肝要です。

Profile

シエンブレ株式会社 代表取締役社長
1976年、長野県生まれ
2009年 シエンブレ株式会社取締役に就任し、ネット上の風評被害対策、webリスク対策を立ち上げる
2012年 同社代表取締役に就任
2014年より警察庁のサイバーパトロール業務を受託し、
2015年には業界団体一般社団法人WEBリスク対策事業者協会を立ち上げ、代表理事に就任。業界の健全化に取り組んでいる

SIEMPLE

